

高大接続改革における 多面的評価のための電子調査書システム

巳波 弘佳 (みわ ひろよし)

関西学院大学

学長補佐

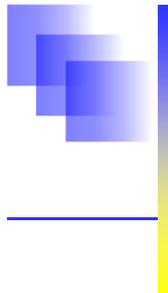
理工学部 情報科学科 教授

miwa@kwansei.ac.jp

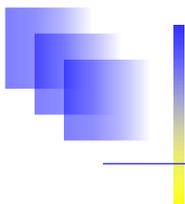


アウトライン

- 多面的評価の必要性
- 多面的評価における「調査書」活用の課題
- 大学の視点からみた多面的評価における課題
～求める資料の内容や入試での活用・
高校からの情報提供の在り方など～
- 電子調査書システムの概要
～大学入学者選抜改革推進委託事業における取組～



多面的評価の必要性



高校教育改革と大学入試改革

社会構造が急速かつ大きく変革する予見困難な時代において
新たな価値を創造していく力を育てることが必要

- 3つの資質・能力
 - 知識・技能
 - 思考力・判断力・表現力
 - 学びに向かう力

※高等学校では「主体的に学びに取り組む態度」を観点別評価

※高大接続改革では学力の3要素、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性等）」の定義は各大学に委ねられている

大学入学者選抜において

新たな高等学校学習指導要領における「主体的・対話的かつ深い学び」等
によって育まれる3つの資質・能力を多面的・総合的に評価する必要性

多面的な評価に向けて

しかし、現状の入試において

筆記試験のみで生徒の本当の学力を測れているのだろうか？

生徒の多様な能力を評価できないだろうか？

- ・ 知識を問う入試から、能力を見出す入試へ
- ・ 「多人数を一点刻みで機械的にふるい落とす入試」から「一人ひとりの能力を見つめる丁寧な入試」への転換が必要

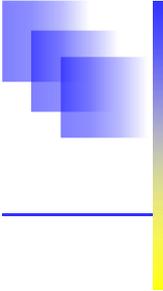
多面的な評価に向けて

- ・ 生徒の多様な能力を評価するための方法や素材
 - 面接／集団討議／プレゼンテーション／調査書／提出書類（ポートフォリオから作成した電子データ含む）

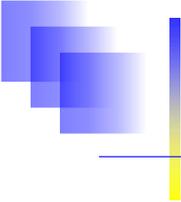
(ポイント)

推薦入試、AO入試、志願者が少ない一般入試では、主体性等の評価は既に行われている

1. 主体性等の評価だけで合格できるという誤解がある。
あくまでも多面的・総合的評価の一要素であって、大学で学ぶためには一定の知識・技能を含めた資質・能力が必要
2. 志願者の多い一般入試では面接等が実施できないため、電子化された調査書や提出書類の活用が必要
3. 主体性等の評価にあたっては、生徒の経済環境による格差等が生じてはならない



多面的評価における 「調査書」活用の課題



調査書活用の現況

- AO入試, 推薦入試, 志願者の少ない一般入試等での活用
 - 志願者の多い一般入試での活用は困難
- 現在の調査書だけでは学力の評価が困難
 - 「各教科の評定平均値」や「学習成績概評」については、高校によって評価にばらつきがあるため、選抜における学力評価に活用できない
 - ※ (例) 在校生全員がA評価もしくはB評価の高校がある
 - ただし、大学入学後の学業成績と高校の評定平均値の間に相関があるとの調査結果もある

調査書活用の現況

- 生徒の多様な活動を通じた評価が困難
 - 「特別活動の記録」，「指導上参考となる諸事項」，「総合的な学習の時間の内容・評価」，「備考」については，生徒の多様な活動から評価への活用が期待されるが，「特に記載なし」との記載や，同一校ですべて同じ内容や，定型文例の記載となっている場合も多く，評価に活用できない
 - 所見は詳細に記載されていても評価に活用しにくい場合もある
 - 端的な記載のため評価ができない事項が多い
 - ※（例）生徒会長，部活動の役職，ホームステイ
 - ※レベルが明確なコンテスト，大会の記録，資格等については評価は可能だが，一部の生徒だけに限られてしまう

調査書活用の現況

現行調査書の記載内容（成果の記録等）の活用における課題

1. 具体的にどのような取り組みをしたのか判断できない
2. 生徒の経済環境や地域格差などが影響する可能性
3. 一部の生徒※だけが評価の対象になる可能性
※部活動における役職経験やコンテスト入賞経験等がある生徒
4. 高校教育への影響（主体性の評価だけで合格できるとの誤解）

見直し後の「調査書」の活用の可能性

平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告：

○「生徒の特長や個性，多様な学習や活動の履歴についてより適切に評価することができるよう，現行の調査書の「指導上参考となる諸事項」の欄を拡充し，以下の1～6の項目ごとに記載する欄を分割して，より多様で具体的な内容が記載されるようにする。

1. 各教科・科目および総合的な学習の時間の学習における特徴等
2. 行動の特徴，特技等
3. 部活動，ボランティア活動，留学・海外経験等
4. 取得資格・検定等
5. 表彰・顕彰等の記録
6. その他

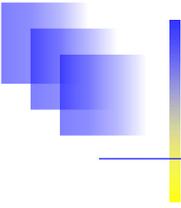
○大学において，上記以外の多様な学習や履歴などを入学者選抜に用いる場合は，大学で評価する内容をどのように調査書に盛り込むべきかといった記載方法などにつき，募集要項等にできる限り具体的に記載するようにする。

見直し後の「調査書」の活用の可能性

- AO入試，推薦入試，志願者の少ない一般入試等での活用は可能だが，志願者の多い一般入試等での活用は，電子化しなければ困難
- 学力の評価は困難
- 生徒の多様な活動を通じた評価は「より多様で具体的な内容」の記載があればできる可能性がある

しかし，高等学校の現場で対応はできないとの多くの強い声

- 高校の働き方改革への対応
- 調査書の元資料となる指導要録の簡素化
- 生徒や保護者の不安（経済格差，地域格差）

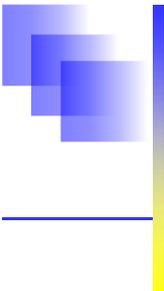


見直し後の「調査書」の活用の可能性

- 「指導上参考となる諸事項」の項目以外の多様な学習や履歴などの記載があれば評価は可能となる

しかし、高等学校の現場で対応はできないとの多くの強い声

- 調査書を大学ごとに複数枚作成することは、調査書作成業務上、極めて困難（業務負担、誤発行等、ミスの可能性）
- 大学がやるべきことを高校に押し付けているのではないかという声
- 一枚に複数の要素を盛り込むことも困難



大学の視点からみた 多面的評価における課題

何をどう評価するのか？

生徒の多様な能力の評価にあたり

何をどう評価するのか？

「高等学校での学び」により培った資質・能力の評価

- 新たな高等学校学習指導要領における「主体的・対話的かつ深い学び」等によって育まれる，3つの資質・能力を多面的・総合的に評価する必要性

- 一部の生徒だけが対象となってはならない
- すべての生徒を対象に，資質・能力を見るべき
- 経済格差，地域格差等が生じない評価が必要

そのために，どのような資料が必要か？

調査書（電子化された場合も含む）だけでは 評価できない

なぜなら

1. 成果物，証明資料等の添付ができない
2. 端的に記載された成果や記録の記載だけでは評価ができず，一部の生徒だけが対象となる可能性がある
3. 「成果の記録を得点化する」ことに対する，生徒や生徒の関係者からの不安の声
4. 高等学校での作成の負担などの現状を考慮すると，評価のために必要な，より多様で具体的な内容や，大学ごとの要請による詳細な記載も難しいのではないか

そのために、どのような資料が必要か？

(現状のAO入試や特別選抜入試での実例)

- あなたが高等学校3年間で力を入れて取り組んだことは何ですか？
- 大学での学びにおいてそれをどのように活かしたいと考えていますか？
- 大学での学びを将来どのように活かしたいと考えていますか？

⇒ 高等学校での学びの取り組みについて、詳細な活動実績報告書や証拠を添付させて提出させている

学びの成果とともにプロセスが記載された 詳細な資料が必要

しかし、生徒には作成のために大きな負担がかかるとの声

- 入試直前に高校生活全体を振り返って資料を作成することは負担

大学入学者選抜改革推進委託事業JAPAN e-Portfolioの取り組み

- 主体的な学びを育むために活用されるe-ポートフォリオに、既に多くの生徒が学びの記録と資料を蓄積しており、提出書類の作成に活用可能

そのために、どのような資料が必要か？

調査書 + 提出書類 (学びのプロセスの記録)

電子調査書 + eポートフォリオの活用 (出願資料の全面電子化)

成果だけではなく、学びへの取り組みから
一人ひとりの生徒の資質・能力を
多面的・総合的に評価することが可能に

ポートフォリオを活用した評価例

(例) 総合的探究の時間・探究の評価

探究活動などにおける学びのプロセスから、知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力、そして学びへの関心・意欲・態度（主体的に学びに取り組んだ態度）を評価したい

論文や発表資料が必要不可欠

- 成果だけでは評価ができない
 - グループで取り組んだ場合の個々人の役割や関与度合いの違い
 - 高校での指導の度合いの違い

学びのプロセスの記録 も活用すれば一定の評価ができる可能性

「プロセス」の可視化により、これまで見過ごしていた多様な能力にもスポットライトを当てることが可能

高大接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料 (2020/04/17)

18 / 32

ポートフォリオを活用した評価例

成果：論文，発表，コンテスト，コンクール，大会等

プロセスの記録：

- 研究・実験記録，参考文献（書籍・論文等），研究室訪問記録，調査記録，フィールドスタディ等
- 研究目的，内容，テーマを選んだ理由，研究の振り返り等

(評価の観点例)

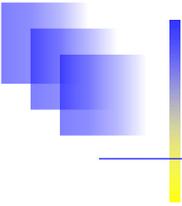
- 論文は非常に良くできているが，本人がどこまで理解しているか不明
 - ⇒ 課題に関する研究のためにふさわしい文献を選んでいるか，課題研究にどのように活かすか書かれているか，課題について仮説を立てて実証するための調査やフィールドワークを行っているか，振り返りがなされているか，などを見れば把握可能.
- 課題研究の論文が共著．志願者はどのような役割を果たしたか？他者とどのように協働したのか？
 - ⇒ 論文作成のプロセス（各自が何をやったか明確に記述されているか否か）を見れば把握可能.

高大接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料 (2020/04/17)

19 / 32



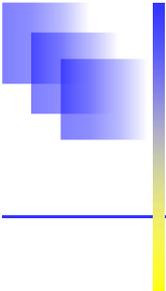
JAPAN e-Portfolioへの誤解

- そもそもポートフォリオなど利用しないのではないか？
⇒民間のものを含めると既に120万人程度が利用
- ポートフォリオを入試に活用するのは本来の趣旨に反する
⇒ポートフォリオそのままを用いるのではなく、大学出願にあたって、生徒がポートフォリオに蓄積したデータを活用して大学出願用のデータを作成（ショーケース機能）
- 高校教員の負担が大きいのではないか？
⇒ポートフォリオのすべてのデータを大学に提出するわけではない。提出するデータは生徒が選択し出願用にまとめたもののみを指導（現状の提出書類と同じ）
⇒承認作業は事実に関する項目（指導要録レベル）のみ。校外活動は除く
- 民間事業者に情報が流出しているのではないか？
⇒民間へのデータの提供は行っていない。

高大接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料 (2020/04/17) 20 / 32



電子調査書システムの概要

高大接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料 (2020/04/17) 21 / 32

調査書の電子化への要請

国立大学協会（平成29年6月14日）：

「一般選抜における調査書等の活用普及拡大については、**調査書等の電子化や活用システムの構築などが不可欠**であり、それらが早期に検討・実施されることを求める」

平成31年度大学入学者選抜改革推進委託事業：

「主体性等をより適切に評価するためには、高等学校が提出する調査書を積極的に活用することが有効であり、そのためには調査書の電子化が喫緊の課題とされている。そのため、本委託事業においては、電子調査書の普及と一般選抜においても

電子調査書が効果的に評価できる環境整備及び調査書における評価の在り方の調査研究
を実施する」

平成31年度大学入学者選抜改革推進委託事業

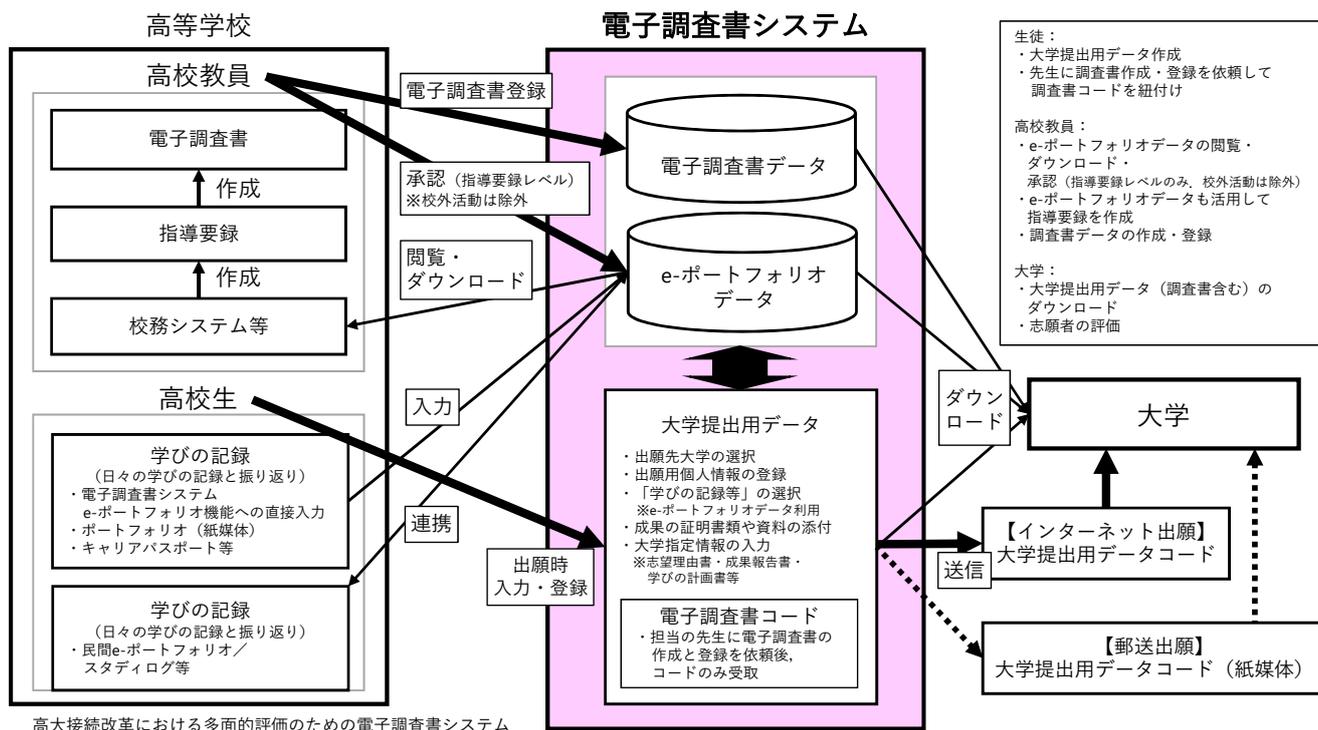
平成26年度より実施している大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）の成果である高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」を活用することにより、調査書の電子化に係る課題を解決し、電子調査書の普及及び電子調査書が効果的・効率的に作成し活用される環境を構築するとともに、電子化するメリットを最大限に発揮し、各大学の入学者選抜における「主体性等」の評価が飛躍的に向上するための提案を行うものである。

「業務計画書」より

電子調査書システム（仮称）

全面的に導入された時のシステムイメージ（案）

・電子調査書授受機能とポートフォリオ機能とショーケース機能を融合



高次接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料(2020/04/17) 24 / 32

電子調査書システム（仮称）

英国のUCAS，米国のCOMMON APPLIに相当する日本独自のシステム

・電子調査書授受機能

1. 校務システムで作成された全国统一調査書フォーマットの電子調査書を高校がアップロードし，大学は，電子調査書と生徒の学びの記録等をダウンロードして活用
2. インターネット出願，郵送出願のいずれにも対応
3. 生徒の出願先大学とリンクしており，誤発送が生じない
4. 生徒は調査書の中身の閲覧はできない

・ポートフォリオ機能

1. 主体的な学びの振り返りのためのポートフォリオとして学びのデータを蓄積
※添付データとして，論文のデータや発表資料，画像などを蓄積できる
2. 蓄積したデータを高校が指導要録作成に利用可能

・ショーケース機能

1. ポートフォリオ機能で蓄積した情報から，大学の出願に必要な情報を切り出し，整理して，大学出願用に必要な情報の入力に活用
2. 大学ごとに必要な志望理由書や学びの計画書等のアップロードが可能

高次接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料(2020/04/17) 25 / 32

電子調査書システムの特長

調査書とポートフォリオ情報を一体化して活用するメリット

- 生徒の多様な活動に関する証明資料や情報が利用可能（大学）
⇒ より多くの情報に基づく多面的な評価が可能に
- 出願書類の全面電子化（高校・大学）
⇒ 入試業務の簡素化と出願ミスの減少につながる。
- ポートフォリオ機能における成果の真正さの確認（大学）
⇒ 入学者選抜での活用も可能に
- より多様で具体的な内容への対応が可能（高校）
- ポートフォリオ情報を参考にして指導要録を作成可能（高校）
⇒ 調査書や指導要録の作成稼働の軽減
- 生徒は蓄積した情報を入試にも活用することができる（生徒）

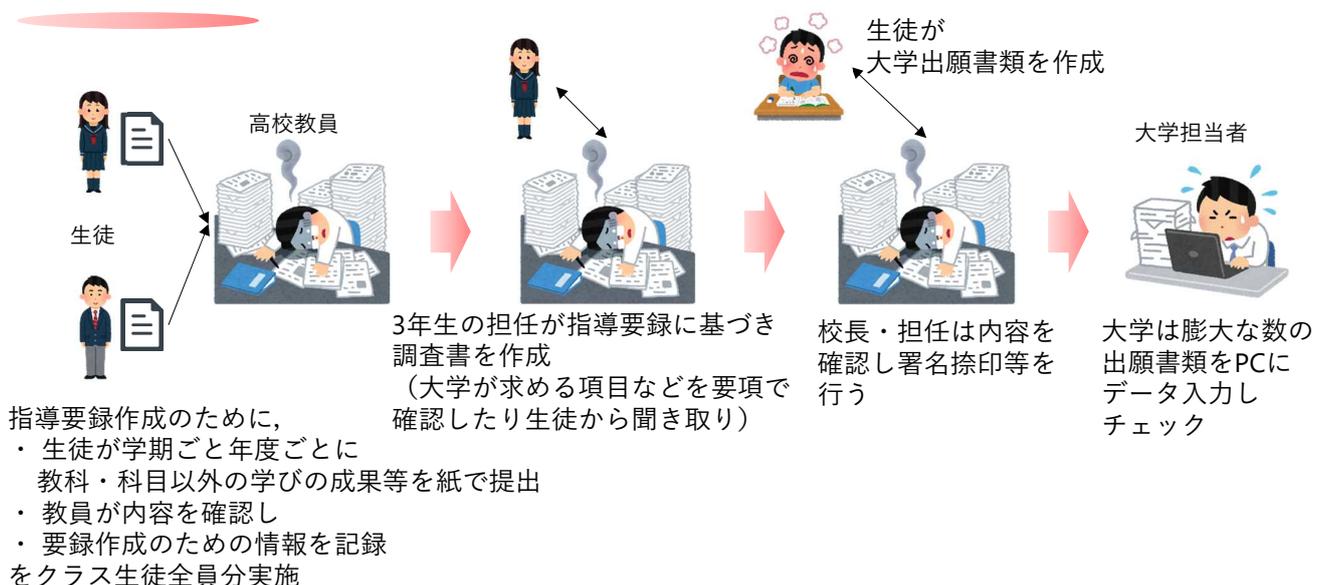
高大接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料(2020/04/17) 26 / 32

電子調査書システムがもたらす効果

これまで



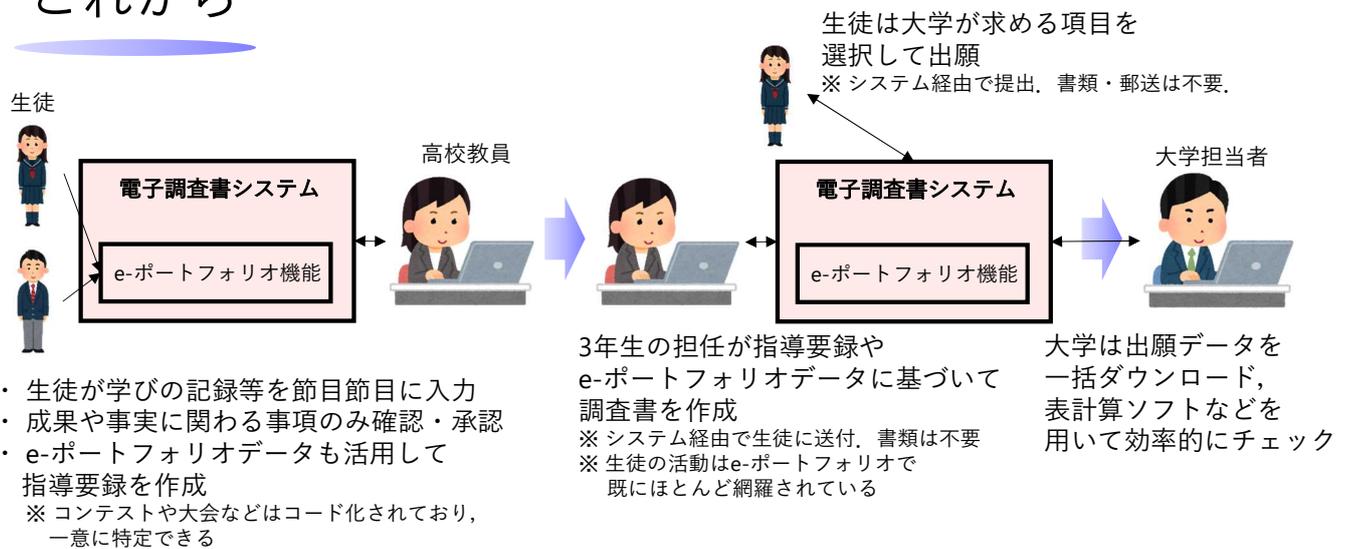
高大接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料(2020/04/17) 27 / 32

電子調査書システムがもたらす効果

これから



高大接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料 (2020/04/17)

28 / 32

高等学校教員の声

～電子調査書システム入力デモ画面を見て～

3月末～4月10日にかけて高等学校教員への意見聴取を実施

- 生徒が調査書を送付するという前提に変更がなく、操作も簡単で安心しました。
- 生徒の出願先データとのマッチングや生徒氏名のマッチングもできるので、送付ミスが起こらないことは助かります
- 「指導上参考となる諸事項」「特別活動の記録」「総合的探究の時間の記録」「備考」等は、調査書の記載では限界がある。より多様で具体的な内容は、指導要録に記載しきれない。この部分はポートフォリオ活用が望ましい。
- 大学ごとに要請がある、備考欄に記載する事項について、対応が難しい。一人の生徒に複数枚の調査書は事実上作れないし、作成した後、送付ミスが生じる可能性が高まる。
- 年末に4000通の調査書を作成している。操作が簡易で、誤って送付しない仕組みや、郵送の場合に誤って他大学のものが送付されても大学が閲覧できないのは良いと思う。

高大接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

「大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議」資料 (2020/04/17)

29 / 32

高等学校教員の声

～電子調査書システム入力デモ画面を見て～

3月末～4月10日にかけて高等学校教員への意見聴取を実施

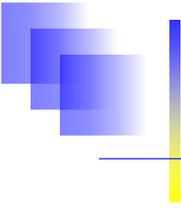
- 指導要録の作成にあたって、ポートフォリオのデータが活用できるのは大変業務の効率化になる。
- 高校ごとに調査書の発行業務が異なるが対応できるのか？
⇒事務局も発行作業ができる ⇒ 大変助かる。
- 2022年度からの全面電子化には疑問。次の新指導用要領下での全面電子化でよいのではないか。準備期間も不足している。2年間しか使わないシステムにお金をかける必要はない。
- 電子調査書のシステムを運用するのは、公的な機関の運用であるべき。民間は絶対にあり得ない。
- 校務システムとの連携を図ってもらえているのはありがたい。指導要録とスムーズな連携ができることは必須条件だ。

高等学校教員の声

～電子調査書システム入力デモ画面を見て～

3月末～4月10日にかけて高等学校教員への意見聴取を実施

- 次期指導要領下での調査書においては、観点別評価も加わることになる。業務が増加する。「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」などは、ポートフォリオのデータを活用し、次回の調査書からは割愛してもらいたい。
- ポートフォリオの承認についても、高等学校の一教員の責任で行うものではなく、高等学校長の責任下にある。ポートフォリオ活用にあたっては、その点を留意してほしい。
- ポートフォリオ活用により生徒の出願時のアピール項目と整合性が保たれることは良いと思う。
- 一元的に運用してもらいたい。複数の団体（例えば民間）などになると、経費がかかることになり、生徒に転嫁することになってしまう。発行ミスも生じてしまう。これは大学も同じではないか。



電子調査書システムの拓く世界

「知識を問う入試から，能力を見出す入試」，
「一人ひとりの能力を見つめる丁寧な入試」に寄与

- **多様性**

- 一人ひとりの生徒の学びの取り組みにスポットライトをあて，調査書だけでは評価されないような，生徒の多様な取り組みから能力を評価できる。

※ 経済格差や地域格差の回避に

- **振るい落としかからマッチングへ**

- 生徒と大学の適合性がより重要に

- **ICTによる効率化と高度化**

- より丁寧な評価を，より効率的に行うためにこそ，ICTを活用